

Net Work Report FORWARD

ネットワークレポート
フォワード 第50号
for working together

特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク
〒540-0031 大阪市中央区北浜東3-14(エルおおさか4F)

TEL:06-6949-0350
FAX:06-6949-1256

http://www.workwith.or.jp/
E-mail:o-isc@onyx.dti.ne.jp

発行人/江口 敬一

今号のごあいさつ

「FORWARD50号発行に寄せて」

代表理事 江口 敬一

本格的な梅の開花と共に、春の気配が感じられる季節となりました。皆様お元気でお過ごしのことと存じます。さて、早いもので当ネットワークの機関紙「FORWARD」が50号を迎えています。創刊は2001年7月で大阪障害者雇用支援ネットワークが特定非営利活動法人(NPO)の認証を得て、第一回通常総会が開催された記事が表紙を飾っています。任意団体から当時、まだ目新しかったNPOの設立について、副代表理事(当時)の基調講演が特集されています。その中で障がいのある人の排除(exclusion)から包含(inclusion)へという昨今の多様性(ダイバーシティ)に繋がるキーワードがあり、また、ネットワーク結成時の障がい者インターンシップ事業が厚生労働省の「障がい者緊急雇用安定プロジェクト」(現トライアル雇用の始まり)に採択され、600人以上の障がいのある人がトライアル雇用から実雇用に移行し、大阪府が全国一の実績を残したとあります。当ネットワークのスローガン「大阪を障がい者雇用日本一のまちに」が連合大阪、関西経営者協会(当時)、特例子会社・障がい者雇用事業主、職業リハビリテーション等関係者と労働行政が連携した成果で、当該事業においても一つのキーワード「一緒に」を共体験(experiencing together)できた出来事でした。以来、14年が経過し、この間障がい者雇用を取り巻く環境は大きく変化してきています。障がい者自立支援法の制定による福祉から一般就労へという流れや、障がいのある人の就労意欲の高まりと就労者数の増加に伴い、当ネットワークの障がい者インターンシップ事業は、国の障がい者委託訓練、トライアル雇用制度として引

き継がれ、大阪府のみならず全国的に拡充、拡大され、就労支援に大きな役割を占め、一般化してまいりました。当ネットワーク設立時に目指した目標が、一定の



江口代表理事

役割を果たしたと言えるかもしれません。更に障がい者就業・生活支援センター、就労移行支援事業所の設置により就労支援体制も整備されてまいりました。就労支援の対象も身体障がいのある人や知的障がいのある人に加えて、精神障がいのある人や発達障がいのある人にも拡大し、法定雇用率の改正、精神障がいのある人の雇用義務化や障がい者権利条約の批准、A型事業所の増加や400社近い特例子会社の設立数等、枚挙に暇がないほどの社会情勢の変遷があります。一方、ここ数年当ネットワークでは、40才台を中心とする次世代を担うグループに、今後の大阪障害者雇用支援ネットワークのあり方について検討をお願いしてまいりました。当ネットワークは、無いものは自分たちで創っていくという諸先輩方の高い志と組織を超えた思いによって創設されました。その精神を受け継ぎながら、規模の拡大を追うことよりも、当ネットワークにしかできない内容の充実に重きを置く身の丈に合った事業活動を今後も期待したいと存じます。現在、人事も含めて新体制に向け準備中です。5月の総会で皆様にお諮りしたいと思っています。今年もよろしくご支援ご指導の程お願い申し上げます。

【FORWARD50号を迎えて】

～役員からのメッセージ～

最高顧問：關 宏之（広島国際大学 客員教授・(社福)日本ライトハウス 常務理事）

季刊FORWARDがもう50号を数えるのですね。伍賀さんによる装丁で、格式のある機関誌として体裁が整ったころを懐かしく思い出します。“FORWARD”は盲導犬への命令語で、「前へ…」を意味します。ひたすら前、前、前を意識したあの頃を懐かしく思い出します。時代はノスタルジアに浸り、過去を回想しているだけの人をどんどん置いていきます。いったん出来上がった秩序は、その時点で追っかけてきた次の秩序に追い越されていきます。それでいいのだと思います。これからも追究すべきミッションは“FORWARD”（前へ）に違いありません。

副代表理事：井尻 雅之（連合大阪 副事務局長）

1996年『大阪を障害者雇用日本一のまちに！』を掲げて発足した大阪障害者雇用支援ネットワークも18年が経過し、FORWARDも50号を迎えました。これまで経営者団体・事業主・福祉施設・労働団体・行政など、多くの諸先輩がボランティア精神で企画・運営されてこられた活動の足跡であり、敬服しています。昨年は、障がい者の働く権利や尊厳を守る「改正障害者雇用促進法」の成立や法定雇用率の引き上げなど、雇用環境の充実につながる施策が強化されました。法の円滑な施行に向けても、労使で職場の理解を深める取り組みを推進したいと思います。

副代表理事：奥脇 学（(有)奥進システム 代表取締役）

8年前から障がい者雇用を始め、何もわからない時、当NPOに入会し勉強させて頂きながら障がいのある人と一緒に生きて、働くことの大切さと、その背景にある社会問題を知りました。当NPOに入って5年程の間に障がいのある人と働く環境情勢は目まぐるしく変化しています。その時々にあった社会的なニーズを捉え、ここで学んだことをいかして少しでも恩返しができるように、中小企業の立場から当NPOで何ができるのか、また何をすべきなのか、皆さんと一緒に考え頑張っていきたいと思っています。働きたいと思っている障がいのある人を、ひとりでも多くその思いを実現できるように…。

副代表理事：金塚 たかし（(NPO)大阪精神障害者就労支援ネットワーク JSN統括所長）

時代と共に大阪障害者雇用支援ネットワークは、変革の時を迎えているのであろう。しかしながら、変わらぬものとして法律や制度に準拠する活動だけではなく、法人の成り立ちの独自性を生かしながら、特定な人だけではなく必要なサービスを必要な人に届けることが、当法人の役割の1つではないかと考える。新たな体制の中で1つの方向性として、これまでの活動で培った実績と会員それぞれ持っているノウハウをリンクさせ発信していく活動は、他の法人にはない厚みと深みのある内容になり、不特定多数の人にとって魅力ある啓発・情報発信になるのではないかと考える。

副代表理事：湯川 隆司（知的障害者更生施設(入所)愛の家・施設入所支援・生活介護部門 部門長)

2001年に当NPOが誕生し、『熱い想いの持ち主が集い“無いものは作る！”』の精神に触れ、自分の中で衝撃と新しい文化への期待が私の原点であり、当NPOの魂だと思っています。“会報FORWARD50号”発行を迎え、働く意志を持ち“いきにくさ”を抱えている障害のある方へ働き続けられる環境をつくっていくことが、当NPOの役割であることを再度認識し、皆さまと一緒に『大阪を障害者雇用日本一のまちに！』を実現していきたいと考えています。今後どうぞ宜しくお願いします。

理事：伊集院 貴子（大阪障害者雇用支援ネットワーク 事務局）

障害のある人の雇用・就労の環境は、ここ10年で目覚ましく変化を遂げてきたと感じます。大阪障害者雇用支援ネットワークで、インターンシップ、企業ネット、職場適応援助者養成研修をはじめとする全ての事業に携わる中、多様な障がいのある人、企業の人、支援機関の人と関わってきました。この繋がりは私にとって大きな財産です。その中で思うこと、いつも変わらずひたむきに障がいのある人、障害者雇用企業に寄り添っている人たちに、ほんの少しでも陽が当たり、働き、支援し続けていけるような社会に向けて～もう一歩前へ～。

理事：乾 伊津子（大阪市職業リハビリテーションセンター 所長）

任意の勉強会の時期を含め雇用支援ネットワークはこの18年間、大阪の障がい者雇用を牽引してきた。まだ法人化していない頃の「何かが起こる！」というワクワクした予感のはっきり記憶にある。まだ雇用の伸展もなく、一旦離職をすれば在宅になるという時代、柔軟な発想のもと果たしてきた役割は大きい。会報FORWARDは50号という節目を迎える。これも最初の頃、喧々諤々と議論した内容を、佐賀さんがまとめ熱心に発信して下さった。そういう背景がある。その精神が今でも引き継がれているのだ。今こそ当ネットワークは初心に帰り、新たな立ち位置を探し出さねばならないかもしれない。

理事：酒井 京子（サテライト・オフィス平野 所長）

FORWARDも50号を迎え、これまで重ねてきた活動の年輪を感じます。本人を中心として企業、支援者、行政がそれぞれの役割を果たし、それらをつなぐ役割をしてきたのが当NPOであると言えます。『大阪を障害者雇用日本一に』の精神は連綿と受け継がれ、障がいのある人が社会の中で当たり前働く土壌をつくってきました。この50号を機に、これからも社会を支える力、変えていく力として、地域の課題に取り組むNPOであることを改めて確認したいと思います。

理事：嶋田 彰（大阪市立舞洲就労支援事業所 支援係長）

障害のある人の雇用が様々な要因で追い風になっていますが、その反面、その人を取り巻く環境の変化（家族構成の変化、その人自身の高齢化等々）が原因となって働き続けることが困難になったり、また私たちが向き合うべき人の層が多様化してきたりと、決して逃げることのできない課題に直面していると思います。今後も大阪障害者雇用支援ネットワークでは、障がいのある人の『働く』を基軸にした支援を展開していくことになるでしょうが、それに加えてその人の人生やその人を取り巻く環境（家族や地域社会等）に寄り添う支援のあり方を創造することに、使命があるのではと考えます。

理事：時枝 民生（大阪障害者雇用支援ネットワーク 事務局）

民間企業でのサラリーマン生活を終了すると、残りの生き甲斐を問い直します。かつて企業戦士たることが国のため・家族のためであると信じ、企業も働く個人もより多く納税することによって、世の中への役立ちを自己納得してきました。当NPOへは偶然の企業内任務で、7年前から少し関わり始めました。企業は自らの力で世界と生き残り競争をします。猛進すると社員を含めたまわりが見えにくくなりがちです。企業の社会的責任を振り返る時に、当NPOに関わる人たちの声援は大きく、地域ネットの有り難さを感じました。体力と家族環境が許す限り、もう暫くほんの少し何らかの役に立てればと思います。

理事：森 悟子（大阪障害者雇用支援ネットワーク 事務局）

2001年7月の創刊号から50号が発行される2014年3月まで12年半にもなるんですね。昔のFORWARDを読み返してみると、事業の実施状況以外にも会員紹介やそれぞれに思うこと等も記事になっており、その時の写真や原稿を見て懐かしい思いもします。法人の軌跡がわかる貴重な資料としてFORWARDは存在しています。13年近く発行し続けるにあたり、連合大阪の歴代の広報事業部長を中心に、それに携わる多くの人たちの協力があつたことへの感謝と敬意をこめて、100号に向けた発行をお祈りしたいと思います。

理事：矢野 孝（矢野紙器(株) 代表取締役社長）

任意団体として当ネットワークの設立に携わったのが44歳、NPO法人化が49歳の時であった。法定雇用率の適用規模でない小規模事業所における障がいのある社員との協働のなかで、共に『働く』ことを結節点として職場に『人が育つ環境』が醸成されることを発信すべく参画をしてきたつもりであった。しかし、振り返ってみると、多くの同士との出会いの中での気付きや学びを持ち帰れる“職場”のかけがえの無さを再確認できたことが、一番の収穫でもあった。この18年の年月の内には、私にとって『心の拠り所』ともいえる大切な人たちとの別れも体験した。『働く』機会の創出は、一人ひとりの“いきる”こと“いかされる”ことと相照らし、人生の交わりと深みを浮き彫りにする。

理事：岩崎 富巳子（連合大阪 部長）

当ネットワークの広報事業部を担当させていただいて、間もなく2年が経とうとしています。これまで障がいのある方との関わりが一度もなかった私には、戸惑いながらのFORWARD編集作業となっていました。定例会や講演会に参加させていただき、行政、企業、支援機関と障がいのある方を繋いでいる当ネットワークの存在意義がとても大きく感じられ、これまで活動してこられた諸先輩方に敬意を表したいと思います。障がい者の雇用環境が変化していく中で、連合大阪の役割として何ができるのか、担当者として今一度考えていきたいと思っています。

監事：安藏 崇史（大阪市職業指導センター 主任）

「会報誌のタイトルを“FORWARD”にしたらどうだろう？」といった提案があつたとき、このネットワークに相応しいとてもいいタイトルだと感じたことを今も覚えています。FORWARDを読んでいただいた方から、「読み応えのある機関誌ですね」「しっかりとした活動をされているのですね」「皆さんの熱意が伝わってきます」とお褒めの言葉をいただくたびに、とても嬉しく誇らしい気持ちになります。50号の発行にあたり、FORWARDの発行とネットワークの重ねてきた歴史に携わってこられたすべての方に敬意を表すとともに、会員の皆さまとともにしっかりと前進していけるよう活動していきたいと思っています。

お知らせ**～ジョブコーチカンファレンス2014～**

昨年5月、職場適応援助者養成研修機関連絡会は、神戸市において第1回の「ジョブコーチカンファレンス」を開催し、全国各地から様々な立場の方々にお集まりいただき、新たなステージのジョブコーチについて意見交換をいたしました。全国規模で現場のジョブコーチが集まり、国のジョブコーチ制度について考える初めての機会となり、大きな盛り上がりを見せました。その後、国においては「地域の就労支援の在り方に関する研究会（第2次）」が開催され、今まさに、次のステージのジョブコーチが輪郭を現し始めています。

そこで、本年度のジョブコーチカンファレンスは、昨年度に引き続き「実践報告」を通して支援の方法と技術を研鑽すると共に、今後のジョブコーチ制度について最新情報を共有し、その在り方や課題について意見交換をしたいと思います。ジョブコーチだけでなく、障害者就業・生活支援センター、就労移行支援事業所、企業、障がいのある当事者やご家族など、多くの方々にお集まりいただきたいと思えます。

- 日 時：平成26年5月17日（土）10:30～17:30（受付9:30～）
- 場 所：中電ホール（愛知県名古屋市東区東新町1 中電本店ビル）
- 対象者：職場適応援助者養成研修修了者および就労移行支援事業者、
障害者雇用企業、その他ジョブコーチの実践に関心のある人
- 定 員：400名
- 参加費：3,000円
- 主 催：職場適応援助者養成研修機関連絡会（公益財団法人キリン福祉財団助成事業）
NPO法人 大阪障害者雇用支援ネットワーク
NPO法人 ぐらしえん・しごとえん
NPO法人 ジョブコーチ・ネットワーク
NPO法人 全国就業支援ネットワーク
- 締 切：平成26年4月30日（水）

■詳細・申込みについて

大会受付専用ホームページ〔<https://v3.apollon.nta.co.jp/job2014>〕をご覧ください。

■申込み先

株式会社 日本旅行関西法人営業部
〒545-0053 大阪市阿倍野区松崎町1-2-12 J R西日本大阪支社ビル1階
TEL 06-6621-4125 / FAX 06-6621-4180 担当 武田

■お問い合わせ先

特定非営利活動法人 ぐらしえん・しごとえん
〒430-0941 静岡県浜松市中区山下町2-1 ハイタウン山下205
TEL 053-489-5828 / FAX 053-489-5829 E-mail: info@kurasigoto.jp

【次世代ネットワーク発 第1弾パイロット事業】 障害のある人とはたらくとき、一緒に考えてくれるところを知ろう ～働くための社会資源の説明研修～ 開催

副代表理事 湯川 隆司

◆2014年2月4日（火）～5日（水）の二日間で研修会を開催した。寒い日でしたが、両日とも天候に恵まれ、企業・福祉・学校・保護者の方々約50人が参加した。
本会の開催目的は、以下の通り。

当ネットワークでは、職場適応援助者養成研修（ジョブコーチ養成研修）を2006年から毎年、年2回開催している。今年で9年目を迎え、養成研修を終了した厚生労働大臣指定の“第1号職場適応援助者（ジョブメイト）”及び、“第2号職場適応援助者（ジョブ・コンダクター）”は850人以上が受講を終えている。現在も応募が多く、来年には受講者1,000人を超えると予想している。このように、ますます就労支援についての期待が高まっているが、養成研修を進める中で、「養成研修を受けたいが、初めてなので一週間は難しい」「もう少し、基礎的な研修がしたい」との声があり、ジョブコーチ養成研修前の基礎講座として開催を決定した。また、『地域の障がいのある人に対して雇用・就労の機会を増進する事業を行うことにより、地域の障がいのある人の社会参加と福祉の増進に寄与する事を目的とする』という当ネットワークの設立主旨から、これから初めて障害のある人と一緒に働こうと考えているが、どう進めて行けばいいのか悩まれている方や、改めてどんな制度があるのかおさらいしてみたい方に、是非参加してもらいたいと考えた。その上で、障がいのある人の働くことについて、社会（制度）の流れや動きを知ってもらい、学ぶことができる機会づくりが必要と考えた。



研修会の様子

◆プログラム

- 1日目：『どこに相談すればいいのか』『どんな制度があるのか』『初めて障がいのある人の雇用（就労支援）の担当になったがどう進めていいのか』を学ぶ座学。
- 2日目：『実際に働いている場所を見学し、見学者同士で日頃のアレコレを語り、今後に活かしていこう』のテーマでの見学会。

◆具体的な実施内容

【1日目】

- ・日時：2014年2月4日（火）9:30～16:15
エルおおさか7F 708号室

<講座1>

ハローワークの機能・助成制度について

講師：大阪労働局 職業安定部 職業対策課

障害者雇用対策係長 真銅 申一 氏

内容：障害者雇用対策や雇用促進等に関する法律について、特に、精神障害・発達障害の雇用促進に関する最新の制度や推進事業について。

<講座2>**障害者助成金制度について**

講師：大阪高齢・障害者雇用支援センター
センター長代理・窓口サービス課長
薄井 良勝 氏

内容：大阪高齢・障害者雇用支援センターのリーフレットに基づき、各種助成制度、今後の活用促進について。

<講座3>就労支援について1**障害者職業センターについて**

講師：大阪障害者職業センター
障害者職業カウンセラー 藤原 桂 氏

内容：職業センターの役割と紹介。職業相談・評価・準備支援、実際の作業やトレーニングについて。

<講座4>就労支援について2**障害者就業・生活支援センターについて**

講師：大阪障害者就業・生活支援センター連絡会
代表幹事 井上 正治 氏

内容：“就・(=しゅうポツ)”って何？から、就業・生活支援センターの機能と役割、大阪府下の現状と今後について。

<講座5>就労支援について3**職業能力開発施設について**

講師：大阪市職業リハビリテーションセンター
所長 乾 伊津子 氏

内容：センターの紹介。『はたらくことは当たりまえ！』の職業指導方針で取り組んできた実績と現在の取り組み状況について。

<講座6>就労支援について4**就労移行支援事業所について**

講師：NPO大阪精神障害者就労支援ネットワーク
JSN新大阪 山本 隆博 氏

内容：就労移行支援事業所の役割、全国の事業所の現状と成果や今後の課題について。

<まとめ>グループワーク

5日の見学先（10箇所の事業所・施設）グループに分かれ、引率者がテーブルリーダーとなる、参加ディスカッション（自己紹介・感想・見学に期待することなど）。

【2日目】

- ・日時：2014年2月5日（水）14:00～17:00
各事業所・施設 見学
- ・1グループ4～6人で、10箇所の見学先に訪問。
- ・各事業所、施設での取り組みや思いを身近に知り、それを踏まえ、見学者自身の思いや日頃の苦勞を話し合った。多くのグループが時間オーバーになり、熱い論議がなされた。
- ・障害のある人の働くことを通じて、初めての方もベテランの方も一緒になってこれからを考えていく有意義な研修会となった。

《ご協力いただいた見学先事業所》

- * (株)ダイキンサンライズ摂津
- * (株)ニッセイ・ニュークリエーション
- * シャープ特選工業(株)
- * (株)スミセイハーモニー
- * 丸善運輸倉庫(株)
- * (有)奥進システム
- * (株)エルアイ武田
- * たまがわ高等支援学校
- * JSN新大阪
- * 職リハ・サテライト

**(有)奥進システムを見学し、意見交換する参加者**

*開催の準備など、ご協力いただいた事業所や関係機関、並びに会員の皆さま、ありがとうございました。

<短期職業訓練インターンシップ実施状況 (H26.1.31)>

I. インターンシップ登録及び実施状況

実施中及び実施済件数	47名
修了数	41名
中退数	2名
(うち雇用移行のための中退数)	(0名)
実施中数	4名
実施予定および調整中	2名
登録取消	1名
IS利用登録人数合計	50名

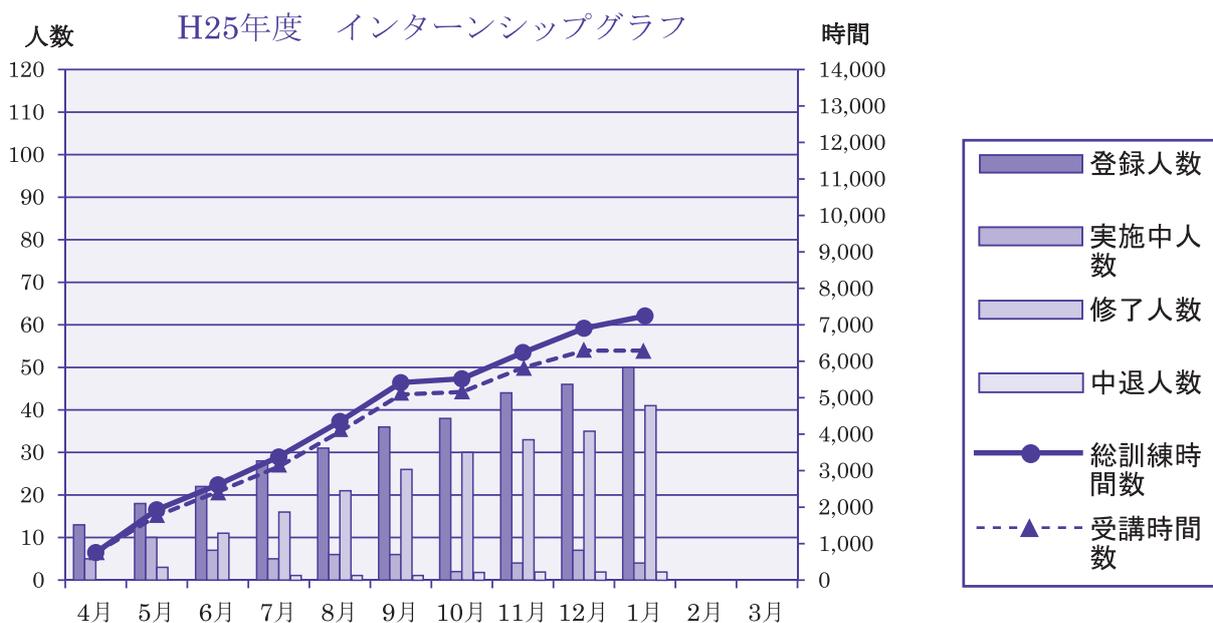
II. インターンシップ相談者状況 <全体>

実施		身体				小計	知的	精神	その他	計
		聴覚	視覚	肢体	内部					
実施	修了者数	4	0	0	0	4	14	23	0	41
	中退者数	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	実施中数	1	0	0	0	1	0	3	0	4
小計		5	0	0	0	5	15	27	0	47
実施予定・調整中		0	0	0	0	1	1	1	0	2
登録取消		1	0	0	0	1	0	0	0	1
合計		6	0	0	0	6	16	28	0	50

III. 就職状況

	身体	知的	精神	その他	全体
就職者数	1	4	9	0	14
障害種別就職率	20%	27%	33%	0%	30%

※ 就職状況については一部確認が取れていない所があるため、一部数に反映できていない可能性があります。



※ 総訓練時間は訓練開始日における訓練実施予定時間の総数です。

※ 受講時間数については、訓練終了時点での受講時間の総数となります。2ヶ月訓練受講中等で未修了のため、報告段階での総訓練時間数と差が発生することがあります。